

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 美郷会	代表者	佐藤 眞杉	法人・ 事業所 の特徴	地域密着型サービスとして伏見区在住の方へのサービスを基本とし、ご利用者様に 臨機応変で柔軟な対応を特に意識して自分らしく、健やかに生活を送って頂ける様に 心がけています
事業所名	小規模多機能ホーム 向島美郷	管理者	高橋 孝嘉		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	1人	人	6人	人	8人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	インフルエンザや新型コロナウイルス感染症など感染症を考慮し、職員各自が感染対策に対して、知識や適切な行動がとれるよう努めることが出来る。	感染症対策として研修実施、手指消毒・マスク着用の徹底、健康管理強化を実施。結果完成率低減と職員の意識向上につながった。	「感染状況や対策について定期的に説明があり、不安が軽減された事があった。」	研修継続で職員の感染対策スキル向上。手指消毒・換気徹底し、流行期の対策を強化。家族への情報共有を充実し、不安軽減。感染対策を維持しつつレクリエーションや外出支援を充実させる
B. 事業所の しつらえ・環境	新型コロナウイルス感染などについて、第5類へ移行され、制限が緩和されてきているが、引き続き感染対策を講じたうえで、利用して頂いている方が安心、楽しめといったことが構築が出来るように取り組んでいくことが出来る。	第5類移行後も感染対策を継続しつつ、レクリエーションや面会の柔軟対応を実施。利用者の安心感と楽しが増し、家族からも信頼を得た。	「感染対策が続いているので安心して預けられる。」 「柔軟な対応で不安が軽減し、安心して見守れる。」 「これからも安全に配慮しながら、楽しい時間を提供してほしい。」	第5類移行後も感染対策を継続しつつ、さらに利用者の楽しみや安心感を向上させるため、個別の希望に沿ったレクリエーションやイベントの充実を図る。家族との交流機会を増やし、より安心して預けられる環境を整える。
C. 事業所と地域の かかわり	地域の行事や防災訓練などへの参加、又、情報収集に努める。以前の様に、地域のボランティアや児童の方々に誘致できる機会を設けることが出来る。	自施設で避難訓練を実施し、防災意識を向上。地域行事は「むかいじま祭りに参加し、利用者と地域住民との交流が実現。今後も継続的な連携を図り、さらに地域とのつながりを強化していく。	「施設内での避難訓練を行い、防災意識が高まったのは安心。定期的に実施してほしい。」 「祭りへの参加で利用者が地域とつながる機会が増えてよかった」 「ボランティアの訪問で家族の表情が明るくなった。今後も続けて欲しい。」	今後も地域との連携を強化し、利用者が社会とつながる機会を増やす。防災意識の向上の為、避難訓練を定期的実施。地域行事やボランティア活動の誘致を継続し、住民や児童との交流を促進する事で、利用者の生活の充実を図る。

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	感染症について、注視しながら地域の出向く機会（散歩・ドライブ・祭りなど）を設けられるように努めることが出来る。	感染対策を徹底しつつ、地域との連携を強化。散歩やドライブ、祭りなどの機会を提供し、外出を促進した。利用者の社会参加や生活の質向上を図った。安全に実施する事が出来た。	「感染対策をしながら外出機会をふやしてくれて安心」「地域との関わりが増え、本人の楽しみが増えた」「無理のない範囲で続けて欲しい」	感染対策を継続しつつ、地域との交流機会をさらに増やす。個々の体調や希望に応じた外出プランを充実させ、安心して参加できる環境を整備。家族とも連携し、安全性を確保しながら地域とのつながりを深める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	定期的に運営推進会議を開催し、地域の方や会議に参加して頂いた方の意見などを反映できるように努める事が出来る。	定期的な運営推進会議を開催し、地域の意見を反映する体制を整えた。利用者満足度向上や地域理解の深化が進んだ。意見交換会の充実が出来た。	「意見を聞いてもらえる機会がふえた」「施設の取り組みがわかりやすくなった」「運営の相談がしやすくなった。	会議の参加者を増やし、意見の反映と進歩共有を強化。地域との連携を深め、家族や住民への情報発信を充実させる。職員間で意見を共有し、サービス改善につなげる仕組みを強化。家族の参加を増やす。
F. 事業所の 防災・災害対策	引き続き、地域の防災訓練への参加をしていく。又、不測の事態を考慮し、自施設の消防訓練に参加が出来てない職員等、独りでも多く参加をし、適切な行動がとれるように備えることが出来る。	地域の防災訓練に継続参加し、職員の消防訓練参加率も向上。避難訓練や初期対応の理解が深まった。一方で業務の都合で全員の参加が難しく、今後は参加機会の拡充や共有が課題。	「職員の防災訓練が高まり安心できる」「今後も実施してほしい」「災害時の具体的な対応や避難方法をもっと共有してほしい」	防災訓練の参加機会を増やし、業務で参加できない職員向けに別日を設ける。家族へ避難対応や災害時の行動計画を積極的に共有する。BCP（業務継続計画）の実施を継続していく。